

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201297		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟		
所在地	札幌市東茨戸2条2丁目50-58		
自己評価作成日	平成23年5月9日	評価結果市町村受理日	平成23年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした空間の中、ご本人のペースでゆったりと生活をして頂いている。利用者に希望を聞き、月に一度買い物や外食などの外出行事を行い、外出する機会を多く持っている。天気の良い日には外へ散歩をし、鶏や犬にエサをあげたり、花見などをし気分転換を図って頂いている。日々の生活風景や外出行事などの写真を撮り、ホーム内の壁やご本人の居室の壁に掲示している。その写真をご家族へお渡しし、喜んで頂いている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201297&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年5月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟」は札幌市郊外の自然環境に恵まれた場所に位置している。近隣には法人の福祉施設とグループホームがあり、また協力医療機関もあるので複合的なサービス提供が可能になっている。当事業所の建物は木材のログハウス風で、屋内は天窓からの採光が柔らかい雰囲気を作り、共用空間は明るく開放的である。地域との関係は良好で、隣人に除雪や除草を手伝ってもらったり、利用者が近くの犬の繁殖施設で子犬と触れ合うなど、近隣住民と自然に触れ合っている。法人の強力なバックアップの下に、法人の委員会に職員代表が所属し、各マニュアルの整備や研修体制の充実も図られている。法人の別事業所と合同で夜間を想定した避難訓練を頻繁に行い、災害対策や緊急時の協力体制を作り、利用者の安全な暮らしを支えている。また近隣の協力病院とも連携を密にしており、利用者や家族の安心感にも繋がっている。管理者と職員は月2回のユニット会議などで常に意見を交換しており、法人のグループホーム共通理念の下にケア目標を立て、利用者の個別の意向に沿って支援を行っている。利用者は毎月の外出行事や買い物など外に出る機会も多く、ゆったりと過ごしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の「家庭的な雰囲気の中で支えあい、地域の中でその人らしく生活できるケアを提供する」基本方針を挙げ、施設独自のケア目標「笑顔で挨拶」とし、ケアに取り組んでいる。	法人では地域密着型サービスの意義を踏まえた「心の緩和」という理念を含む4つの施設理念を作成している。その施設理念を踏まえ、事業所独自のケア目標を全職員で作成し、居間に掲示している。出勤時に各職員は理念を意識し、ミーティングなどで再確認して日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行う夏祭りには、地域住民の方々をご招待し交流を図っている。近くの小学校の児童が学習発表会や踊りを披露しに訪され、子供達との交流もある。	利用者は散歩中に会話を交わしたり、近くの犬の繁殖施設で子犬と触れ合うなど、日常的に近隣住民との交流を行っている。隣人に除雪や除草を手伝ってもらったり、事業所の畑で収穫した作物をお裾分けしている。大学の吹奏楽部員が訪問して、演奏を聴く機会もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の方々との話し合いをしている。また、来訪者や見学者の方にも支援内容やケア内容を説明し理解を深めて頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。ホームの現状報告、行事の打ち合わせや報告、防火訓練の報告などを行っている。実際に昼食を食べて頂き、サービスの向上につなげている。	年間計画を作成して、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。昨年度からは町内会長の協力により民生委員も参加し、災害対策や外部評価の結果報告なども行い、出された意見や提案などは日々のケアやサービスに活かされている。	運営推進会議の案内と議事録を家族に送付することで更に会議についての理解を深めてもらい、意見収集や家族の参加につながるように期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区のグループホーム管理者連絡会に参加し情報を得ている。	管理者は市の連絡会議や研修に参加している。施設長が市役所を訪問して事務手続きや連絡を行い、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。昨年度は車いすの贈呈式も行われた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルをもとに、職員全員で、入居者の行動を制限するような行為をしないよう周知している。	法人で身体拘束廃止マニュアルを作成している。外部研修後内部で伝達研修を行い職員間で理解を深め、管理者も命令的な言葉を使わないように職員を指導している。玄関は夜間のみ施錠して、利用者が出かけようとした時は「散歩に行きましょう」と声をかけて一緒に外出している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会や資料を配布し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の機会がなく諸制度についての相談などは、管理者が対応している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に、施設利用についての説明を十分に行い、ご本人・ご家族の不安や疑問点を確認している。契約時にも再度確認し、契約書・重要事項説明書の説明をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付の担当者や苦情解決体制の説明をしている。また、ご意見箱を玄関フロアーに置き、意見・要望は、面会時などで機会を設け、会議やミーティングにて話し合い対応している。	家族の来訪時に近況報告をして、意見や思いを聞くように努めている。家族からの意見や些細な言葉は連絡ノートに記載したり、会議の時に報告して全職員で把握するように工夫している。	法人として、更に家族の意見や意向をもらえるような内容の家族アンケートを実施して、日々の運営やケアに活かされるように期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや会議、連絡帳を活用し話し合う機会を設けている。また、業務中にも意見や提案を聞き反映できるようにしている。	管理者は、朝夕の申し送りやユニット会議において、各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。施設長による個別面談も年1回行われている。毎月の外出行事を担当制にして、各職員の提案を活かしている。設備面に関しても具体的に職員から意見が出されるなど、多方面に渡り職員の意見や提案が活かされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の勤務状況などを把握し、統括施設長へ報告している。統括施設長は、職員と面談を行い勤務状況や希望などを確認し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が年に6回程度ある他に、職員の状況に合わせた外部研修に参加できるように努めている。昨年からは、職員育成を目的とした有期実習型訓練に取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・区のグループホーム管理者会議に参加している。区の管理者会議では、同業者間の交流を行い、情報交換や職員研修など、サービス向上への取り組みに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問時に得た情報を職員間で共有し、ご本人の不安や心配事や要望を聞き、不安を軽減するよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用をする前に、見学や自宅訪問を行い面談をしている。ご家族の不安や心配事を軽減できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に、ご本人・ご家族から話を聞き、どの様な支援が必要なのかをしっかりと判断し、他のサービスにつながるように対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生きがいや、やりがいを持って頂けるよう家事作業など、各自の希望と能力に応じて役割分担をしている。ご本人の好きなことや趣味など發揮できるように心がけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話での連絡や面会時に、利用者の様子をお伝えし、ご家族と連携を取り合い共有できるようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から交流のある知人の方の来訪や、電話など本人に取り次ぎ交流を続けていけるよう支援している。知人と外出する利用者もいる。	家族の協力の下、お墓参りや馴染みのお店に出かけている。宗教関係の知人と電話で話をする利用者もいる。家族や親戚が利用者本人の好きな食べ物を持って来てくれることもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者・職員とがリビングに集まり個々の関係を把握し、体操や風船バレーなどのレクリエーションを全員で楽しめるような環境作りに努めている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に、終了してもいつでも施設へ立ち寄って頂けるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の声に耳を傾け希望・意向の把握に努めている。	職員は、利用者の話や表情、仕草などから本人の思いや意向を把握している。得られた情報は連絡ノートに記載したり、ミーティングで再確認して職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から、生活歴や暮らし方、今まで利用していたサービス機関などから情報を得て、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化・状態を記録し、ミーティングにて職員が情報を共有できるようにしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを行いモニタリング、問題点の検討をし、ご本人・ご家族の意向も反映できるように介護計画を作成している。	新規利用者の介護計画は1ヶ月後に見直しを行っている。定期的な見直しは、家族の来訪時に意向や意見を聞き、3ヶ月毎に計画作成担当者が各職員の意見を聞いて計画を作成している。介護計画は家族とわかりやすいように本人にも説明している。	定期的な見直し時に、書式などの工夫で職員もモニタリング記録に参加できる方法で、一緒に作り上げるような介護計画に期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化・状態を記録しミーティングや会議などで情報を共有し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の変化するニーズに合わせ、他機関との連携を行い、安心して生活ができる医療体制になっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園などの散歩や、外出、外食、買い物などの支援を行い、楽しんで頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医をご本人・ご家族に確認し選択して頂いている。協力病院による往診・受診体制は整っているが、協力病院以外の場合は、ご家族のご協力を得て受診して頂いている。	協力病院の内科と精神科の往診が2週に1回あり、皮膚科の往診は月に1回ある。他科受診や緊急時には職員が同行している。遠方の受診には家族が同行しているが受診時に口頭で情報を提供し、連携を密にしている。受診記録は個人別にして内容を共有している。	

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡体制が確保されており状態の変化に応じ、電話での指示などを受けられる体制になっている。週に一度訪問看護を受け、利用者の日々の様子を報告し、受診の指示をうけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に訪問看護師や医療機関と連携し、情報を共有し早期に退院できるように努めている。また、ご本人・ご家族の不安を軽減できるように、話し合っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化の指針や看取りに関する指針を説明し、同意を得ている。入院時には、ご家族と話し合いを行い、ご家族の意向を主治医と相談し、方向性を考え支援している。	食事が摂れない、また24時間の点滴など、医療的な処置が継続する場合は主治医の判断で入院方向になる。重度化への対応方針や看取りの考えを基に家族と協議し対応を決めている。家族の事情や意向を汲み取り、法人内の福祉施設を紹介し次の住処を支援することもある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急などのマニュアルをもとに、ミーティングや会議で確認をしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の協力体制の整備、緊急通報システムによる地域住民の方との連絡体制を整備している。日中、夜間を想定した防火訓練を定期的に行い、全職員で防火について取り組んでいる。	消防署の協力の下で、法人の近隣事業所と合同で避難訓練を実施している。日中を想定した訓練の他に、6月から半年の間は夜間を想定して毎月実施している。避難訓練時には近隣の住民に、外での見守りをお願いし参加を依頼しているところである。緊急時に備えて法人との協力体制を整備し、備蓄品類なども確保している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや職員間での話す内容に十分注意し、ご本人や他利用者が不快な思いをしないよう配慮している。	内部研修でプライバシーの確保を学び、利用者を尊重した言葉かけや声のトーンに注意して対応している。名前は「さん」付けを基本としている。個人情報などの書類は適切に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、ご本人の希望、言葉や表情などから思いを確認し、自己決定ができるよう取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はある程度決められているが、ご本人のペースに合わせ声かけを行い、希望に沿えるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回床屋が来られ散髪をしている。買い物行事の時には、化粧品や衣類を購入される利用者もいる。ご本人が好む服を選び着て頂けるよう声かけをしている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、食器拭き、食材の下ごしらえなどを利用者と職員とで行っている。個々の嗜好に配慮した味付けと盛り付けをし、時には、ホットプレートを使用した調理を一緒にしている。	食事のアンケート結果を食材委託業者に伝えて献立に反映させている。また法人の管理者会議に委託業者も参加してもらう予定である。食事を楽しめるように、バーベキューを楽しんだり、利用者と一緒に育て収穫した野菜類を食卓にのせるなどの工夫を凝らしている。職員は利用者のできることを引き出し、食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態、嗜好、摂取状況などに合わせ、食事量と水分量を把握し、生活記録に記録している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助にて口腔ケアを行い清潔にしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンや行動を把握し、トイレ誘導と声かけを行っている。立位困難の方でも、可能な限りトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄は半数以上の利用者が自立している。誘導の必要な利用者には、排泄パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。またオムツを使用している場合も日中は、できるだけトイレで排泄できるように職員が2名で対応することもある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認と声かけ、食べ物の工夫、歩く機会や運動への声かけをし、便秘しないよう取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、ゆっくり入浴ができるよう利用者に確認し、午前・午後の時間帯に入浴して頂いている。	入浴日を月・火・木・金としているが、事情に応じて曜日や時間帯を変更して対応している。入浴は午前中から行い最低でも週2回とし、希望に沿って実施している。入浴を楽しめるように入浴剤なども取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の状態に合わせて、ベッドやソファにて休息をとれるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを常時確認できるようにファイルし、周知している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や楽しみ事に合わせ、裁縫、洗濯物たたみ、花の水やり、絵画などをできるように支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>月に1回外出行事をし、花見、買い物、外食などを行っている。天気の良い日には、散歩や畑へ行くなど、ご本人の希望に合わせ支援している。</p>	<p>毎月外出行事を企画し、外食、花見、百合が原公園などに全員で出かけている。天候を見て庭を散歩し、ウッドデッキでお茶を飲み日光浴を楽しんでいる。希望に応じて買い物などの個別支援も行っている。冬季には外食や誕生会の食事などで外気に触れる機会はある。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員が預かり金として金銭管理をしているが、ご本人が外出や買い物などで使用できるようにしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>いつでも、ご本人とご家族や大切な方が、連絡をとれるようにしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関ホール、廊下の壁には季節感を取り入れた装飾や写真を貼り、居心地の良い空間を心がけている。大きな音や、強い日差しなどに十分配慮している。</p>	<p>天窓からの採光と廊下奥の大きなガラス窓から日が入り、共用空間は明るく開放的である。居間や廊下の幅は広く、要所にソファを置いてゆっくり過ごせるように配慮されている。居間のテーブルには季節の花が飾ってあり、壁には利用者の趣味の作品や行事の写真が品良く貼ってある。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にソファを置いたり、日光浴ができるスペースを確保し、そこで読者やお茶を飲まれたり、入居者同志が会話を楽しめる空間になっている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、ご本人・ご家族と相談し、在宅生活時の使い慣れた家具や日用品を、施設へ持ち込んで頂き使用している。昔の写真や絵画などを居室に飾られている。</p>	<p>10畳程の広い居室に、トイレ・洗面所、ベッド、小箆箆が備え付けられている。その他に使い慣れた家具類や小物を持ち込み、出窓を好みに合わせて使用している。観葉植物を置き、家族の写真を飾るなど、個性を活かした居室作りになっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご本人のできることを重視し、一人ひとりの状態に応じた介助を行い、自立した支援をしている。</p>		

目標達成計画

事業所名グループホーム茨戸ふみりあ2号棟

作成日：平成 23年 6月 10日

市町村受理日：平成 23年 6月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を2ヶ月に一回開催しているが、家族の参加が少ない。家族へ参加の呼びかけや理解をして頂くための取り組みが必要。	運営推進会議の案内を家族へ送付し、参加を呼びかける。参加された家族の意見などを汲み上げるようにしていきたい。	家族へ会議の案内を送付し、議事録を閲覧できるように玄関ホールに置き、面会時に見て頂く。	今年度中
2	10	面会時に利用者の日々の様子を報告しているが、家族からの意見や要望を汲みとる機会が少ない。	家族からの意見や要望をできるだけ汲みとるようにしていきたい。	家族へアンケートを実施し、家族の意見や要望を確認しケアに生かしたい。	今年度中
3	26	モニタリングを担当職員、計画作成者、その他の職員とで定期的に見直しをしているが、書式の工夫が必要。	利用者のモニタリングに職員が参加できるように、会議・カンファレンスの見直しをする。	2ヶ月に一回ケアワーカー会議を行っているが、月に一回行う。会議の中で利用者の現状を話し合い、モニタリングをし、全職員で介護計画に参加できるようにしていきたい。	今年度中
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。